

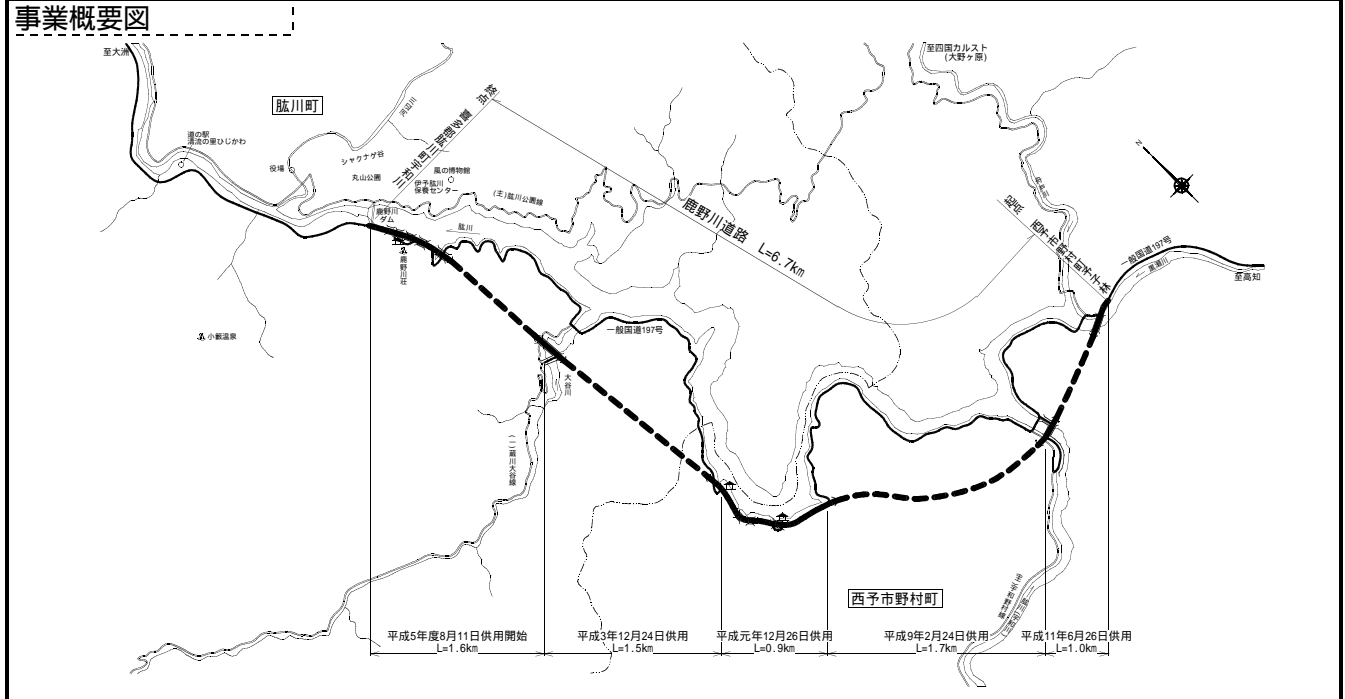
# 事後評価結果（平成16年度）

担当課：四国地方整備局 道路部 道路計画課  
 担当課長名：手塚 寛之

事業名	一般国道197号 <small>かのがわ</small> 鹿野川道路	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 四国地方整備局
起終点	自：愛媛県西予市野村町予子林 至：愛媛県喜多郡肱川町宇和川			延長	6.7km

**事業概要**  
 一般国道197号は、高知市を起点とし、愛媛県三崎町から豊予海峡を渡り、大分県佐賀関町を経て大分市に至る延長約289kmの主要な幹線道路である。鹿野川道路は、地すべり等の崩壊による通行止めの解消や急カーブ、幅員狭隘等の線形不良の解消を図る延長6.7kmの2車線道路である。

**事業の目的・必要性**  
 鹿野川道路は、地すべり等の崩壊によって通行止めとなる不安を解消し、線形改良・幅員確保による走行性の向上を図り、交流圏の拡大、さらに産業・観光等の交流・連携に資する道路として地域の発展に貢献することを目的として計画整備されたものである。



事業の 効果等	事業期間	事業化年度：S59年度	用地着手：S60年度	供用年	(当初) - / H11	変動	1.0 倍
		都市計画決定：なし	工事着手：S60年度	(暫定/完成)	(実績) - / H11		
	事業費	計画時 (名目値) - / - 億円	実績 (名目値) - / 214 億円			変動	- 倍
		暫定/完成 (実質値) - / - 億円	暫定/完成 (実質値) - / 214 億円				
	交通量 (当該路線)	計画時 暫定/完成	実績 (暫定/完成)		- / 3,336台/日	変動	- %
	旅行速度向上	42.8	58.5 km/h	交通事故減少	件/億台キロ		
	(供用前現道 当該路線)	(供用直前年次) S63 年度	(供用後年次) H11 年度	(供用前現道 供用後現道)	(供用直前年次) 年度	(供用後年次) 年度	
	費用対効果分析結果 (事後)	B / C : 1.1	総費用 : 344 億円 (事業費 : 336 億円 維持管理費 : 8 億円)	総便益 : 380 億円 (走行時間短縮便益 : 345 億円 走行経費減少便益 : 33 億円 交通事故減少便益 : 2 億円)	基準年		H16年
	事業遅延によるコスト増	費用増加額	- 億円	便益減少額			- 億円
	事業遅延の理由						

客観的評価指標に対応する事後評価項目

日常生活圏中心都市間のアクセス向上

・大洲市～須崎市間が、周辺道路の整備と併せて約41分短縮し、県境での交通量も2.5倍程度増加している。

大型車のすれ違い困難区間を解消

・線形不良、すれ違い困難区間の解消により、大型車の交通量が1.6倍に増加。

農林水産品の物流利便性向上

・生鮮野菜の出荷が可能となり、また四国縦貫自動車道等と連絡することで広域的なネットワークが形成され、農作物の流通の効率化が図られた。

二次医療施設へのアクセス向上

・西予市消防署野村支署より大洲市までの所要時間が約7分短縮されるとともに、線形改良等により快適な走行が可能となり、より高度な医療施設が整った市立大洲病院等の二次医療施設へより早く安全に救急搬送が可能となった。

線形不良区間の解消による安全性の向上

・現道区間は線形要素が特に悪いため、急カーブが連続していたが、鹿野川道路の整備により線形改良、幅員の確保がなされ、安全性、快適性が向上した。

他11項目について効果の発現が見られる。

その他評価すべきと判断した項目

通行止めによる迂回を解消

・旧道は、災害による道路寸断で通行止めになることが多かったが、鹿野川道路により安全なルートが確保された。

各地イベントや祭りが盛んになり、参加者が増大

・各地のイベントや祭りが盛んになり、関西方面や九州方面等遠方からの見物客が増加している。

事業を巡る社会経済情勢等の変化

四国縦貫自動車道の供用

平成12年 7月 大洲～伊予間(L=31.8km)供用開始

四国縦貫自動車道と大洲道路直結

平成14年 3月 松山自動車道大洲IC～大洲道路大洲北IC間(供用延長L=1.0km)供用開始

四国横断自動車道と大洲道路連結部の供用

平成16年 4月 大洲北只～西予宇和間(供用延長L=15.7km)および大洲道路連結部(供用延長L=0.5km)供用開始

国道197号全線改良

平成11年 6月 鹿野川道路の供用により、国道197号全線改良(2車線化)が完了

鹿野川地区における状況の変化

国道197号沿いには、複数の道の駅が整備されており、地元産品を求めて地域内外から多くの人が訪れている。

四国カルストをはじめとする豊富な観光地があり、県内外からの観光客が増加した。

今後の事後評価の必要性及び改善措置の必要性

鹿野川道路の事業による効果の発現は十分なものであり、今後も当該地域において大きな周辺環境の変化はないものと考えられることから、改善措置の必要性はないと考えている。

計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性

特記事項

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。